「体外循環技術」 投稿・執筆規定

〔2021年7月1日　改定〕

1. 『体外循環技術』では、体外循環技術、心臓血管外科手術、それに関連する生体計測、機器の安全管理および開発に関係する総論、原著論文、研究論文、研究速報、技術開発、症例報告、技術報告、教育・安全など、**他誌に未発表の和文原稿（英語は原著のみ）を掲載します。**

2. 投稿は、共著者を含め原則として本会員とします。ただし、依頼原稿の場合はこの限りではありません。

3. 投稿原稿の採否は、編集会議で討議して通知します。また、編集規定に従い、原稿の加筆、訂正、削除などのお願いをする場合があります。

4. 原稿提出の基本
   1）論文の文字数は9,200字以内を推奨し、図表1枚につき約400字を減じてください。総説、原著は編集部までご相談ください。
   2）**原稿の大きさは、A4判（縦）横組みで1行32字×25行（800字）**とします。
   3）提出原稿は、**原則として漢字混じりひらがな日本語で、常用漢字および現代かなづかいを使用し、フォントはすべてMS明朝体**にしてください。
   4）図表の合計は10点以内を目安にしてください。
   5）提出書類
   （1）原著論文以外
      a. 論文全体の印刷された原本　1部
      b. 論文、図表データを記録したCD-RまたはDVD-R
      c.「体外循環技術」進行表
      d. 原稿投稿時チェックリスト（共著者2名以上の署名と印鑑）
      e. COI開示申告書
   （2）原著論文
      a. 論文全体の印刷された原本　1部
      b. 印刷原本のコピー　2部
      c. 論文、図表データを記録したCD-RまたはDVD-R
      d.「体外循環技術」進行表
      e. 原稿投稿時チェックリスト（共著者2名以上の署名と印鑑）
      f. 誓約書（自筆署名と印鑑）
      g. 同意書（共著者全員の同意署名と印鑑、FAXも可）
      h. COI開示申告書
   6）「体外循環技術」進行表、原稿投稿時のチェックリスト、誓約書、同意書、COI開示申告書は当学会ホームページの「学会誌」からダウンロードしてください。

5. 投稿原稿の1頁目には、次の事項を記載した表紙を付けてください。**記載は、日本語と英語の両方で、項目ごとに日本語の下に必ず英語で記載してください。**
   1）題名（**日本語・英語**）
   サブタイトルには、前後にダブルハイフォン（--）を付けてください。
   2）施設名・所属（**日本語・英語は筆頭者所属のみ**）
   所属の異なる場合は改行し、先頭に1）、2）の番号を付けて記載してください。
   3）著者および共著者
   所属の異なる場合は、名前の右端上に、名前[1)]、名前[2)]のように番号を付けて区別してください。参考文献として使用される場合、**共著者が3名以上のときには、最初の2名（著者を含む）と、最後の1名が通常記載されますので、共著者の記載順位には特に留意してください。**
   4）連絡先
   筆頭者の郵便番号、住所、所属、電話番号、FAX番号、電子メールアドレスを記載してください。

6. 要旨と索引用語
   1）原稿の2頁目には、結果を簡潔にまとめた**480字（32字×15行）以内の要旨（和文）と索引用語（Key words）**を記載してください。**Key wordsは、日本語と英語で記載してください。（注…Key wordsの日本語は5用語以内とします。ただし、1用語は10字以内です。）**
   2）原著は、400 words以内の英語要旨も記載してください。

7. 原稿執筆の順序（原稿の3頁目から）
   1）見出し番号は、以下のようにしてください。
   Ⅰ. _____……見出し
   1. _____……小見出し
   1）_____
   （1）_____
   2）研究論文、研究速報および症例報告の記載は、

Presented by Medical*Online

以下のようにしてください。ただし、研究方法については、対象、症例、方法は別々でも構いません。

Ⅰ．緒言　（はじめに、まえがき）
Ⅱ．研究方法　（対象、症例、方法）
Ⅲ．研究結果　（結果）
Ⅳ．考察
Ⅴ．結論　（結語、まとめ、おわりに）
○参考文献……20以内とする。
○図表表題一覧……図表の表題を1枚の原稿用紙にまとめたもの。
○図表……図表は、それぞれ1枚を原稿用紙1枚に印刷する。

8. 参考文献の記載方法

本文中の参考文献番号は、右肩付文字で下記の要領で記載してください。共著の場合は、その氏名を3人**（最初の2名と最後の1名）**とし、3名以外の扱いは、［例）3人目の氏名、ほか：］と記載してください。

1）文献の本文中への番号記入例
(1) 文献が単一の場合
→ 山田らの報告では[1)]、
(2) 文献が複数の場合
→ 赤血球変形亢進については[1, 2, 6)]
(3) 文献が連続で複数の場合
→ 一般的に言われている[7-10)]

2）参考文献の書き方
(1) 雑誌の場合
著者名，共著者名，共著者名，ほか：論文題名．雑誌名，巻（号）；初頁 - 終頁，発行年．
例）酒井　敬，榊　成彦，早田展章，ほか：急性心筋梗塞を合併した左室破裂の治療と予防．日胸外会誌，46（12）：1039-1042，1992.
例）Kopp KF, Gutch CF, Kolff WJ, et al.：Single needle dialysis. Trans Am Soc Aretif Intern Organs, 18：75-90, 1972.
(2) 単行本の場合
著者名：書名．版，出版地，出版社．発行年．初頁 - 終頁．
例）本全心一：右室機能とその評価法．初版，東京，中外医薬社．1986. p133-138.
例）草川　實　編（または監）：体外循環の実際．初版，東京，南江堂．1991. p5-22，p197-206.
例）Stern C.（田中克己訳）：人類遺伝学．15版，東京，金原出版．1988. p230-348.
例）Pichlmayr RJ：Liver transplantation and impendig hepatie failure. Pichlmayr RJ.（ed by Schmidt FW.）：Liver transplan-tation and hepatie failure. Berlin, Springer-Verlage. 1981. p322-348.
(3) オンラインリソースの場合
発行機関（団体），タイトル，発行年月日，引用ページ，URL，アクセス年月日．
例）厚生労働省医薬食品局安全対策課，人工心肺装置の標準的接続方法とそれに応じた安全教育等に関するガイドライン，今後の人工心肺操作教育のあるべき姿，p87-93，平成19年3月，http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/04/dl/tp0427-10-16.pdf, Accessed 23 June 2016.

3）論文品質を考慮し、編集委員会では当学会誌や他誌の大会抄録、地方会大会抄録、レター、ノート、コメントなどの文書は認めない場合があります。ご注意ください。

9. 図表の規定（写真は図として扱う）

1）**図表に使用する文字は、すべてMS明朝体を使用してください。**
2）図と表は、パソコンによる作図とし、汎用アプリケーションに貼り付けて提出してください。なお、編集部において専門業者による作図を要すると判断した場合は、**著者にこの旨を確認のうえ、著者の実費負担とします。**
3）大きな図表（2,300文字相当）の大きさは、A4用紙1頁以内に収まるものとしてください。
4）表の縦の罫線は、原則として省きます。横の罫線もできる限り省略してください。行間は、本誌の行間と同じ程度（2 mm）にしてください。写真のファイルはJPEGとし、製本時の白黒グレースケールへの変換と明暗調整に留意して作成してください（カラー写真は不可とします）。また、**矢印、スケールなどは、図表の中に焼込むか、編集部にご相談ください。**提出する図表は、投稿者自身が決めた大きさで掲載も可能です。編集部にご相談ください。
5）**図表の掲載位置は、およその場所を本文中の右欄外に、図1、表1のように赤のペンで朱記してください。**
6）**図表は、A4用紙1枚にそれぞれ1枚ずつ印刷し、表題は、図は図の下に、表は表の上に、また、表の注訳は表の下にそれぞれ記載してください。更に、各表題は別紙にまとめ、下記のようにそれぞれ通し番号を付けて図表表題一覧を作成してください。**

例）図1　体外循環回路
図2　患者各部の温度変化
表1　患者背景
表2　人工肺の仕様

Presented by Medical*Online

10. 著作権について

掲載された論文の著作権は日本体外循環技術医学会が保有し、一般社団法人学術著作権協会に管理委託を行います。論文採択後、学会より著作権受託書が郵送されますので、必要事項を記入の上、返送してください。

11. 臨床研究の利益相反（conflict of interest：COI）開示について

1）本学会ホームページ（会員専用ページ）に掲載の「COIに関する指針」に従い、当該研究論文の著者および共著者のCOI状態を適切に開示するものとします。
2）COI状態にある場合は、所定の様式に則って申告してください。
3）論文の末尾（「結語」と「参考文献」）の間に、COI状態の有無を必ず記載してください。

【COI状態にある場合の記載方法】
著者名：営利団体名。他の著者に開示すべきCOIはない。

【COI状態にない場合の記載方法】
本稿のすべての著者には規定されたCOIはない。

12. 別刷りに関して

原著、解説、総説、研究論文に50部を無料にて進呈致します。ただし、**進呈数以上を希望される場合および大会で発表した論文は出版社規定の料金とさせていただきます。**著者校正稿で申し込みください。

13. 原著論文の採択

1）論文は和文または英文で作成し、英文の場合は和論文（re-make版）を編集部まで同時投稿してください。和論文をRe-makeした英論文は会誌収載から1年以内とします。
2）原著論文の査読審査は、非会員（有識者）の査読委員が行います。
3）採択通知後、著者から英語要旨（Abstract）を執筆者の責任で専門業者の確認書または内容証明書を編集部にお送りいただきます。最終書類の到着をもって、論文採択日とします。
4）原著論文は図表注釈の英語記載（100 words以内）も可とします。編集部と掲載について協議してください。
5）和英双方の論文は、英語タイトル、著者、共著者、論旨、参考文献などすべて合致させてください。

14. 原稿の郵送

1）原稿の送付は、原本1部（原著はコピー2部も必要）他に、題名、施設名、所属、著者および共著者、連絡先、和文要旨、索引用語、本文、参考文献、図表、図表の表題一覧などの電子データを収録したCD-RまたはDVD-R（使用OS明記のこと）を下記、編集部にお送りください。
2）送付された原稿が編集部に届き、開封後の必要書類の確認をもって、論文受領日とします。
3）送付していただいた投稿原稿、記録されたディスクは著者に返却しません。編集部で責任をもって処分させていただきます。ただし、原著が不採用の場合、お送りいただいた書類・ディスクは、返却させていただきます。

15. 電子投稿

1）原著論文以外に限って、Emailの添付データとして投稿を受け付けます。受稿トラブル防止のため送信前にあらかじめ下記編集部までメールでご連絡ください。
2）論文本体は、標準的なソフトで作成し、お送りください。電子データは、作業処理後に編集部で責任をもって処分させていただきます。
3）「原稿投稿時チェックリスト」および「進行表」は会誌またはHPからプリントアウトされ、必要事項記入後にPDF化などされ、電子データで添付してください。

16. その他の注意

1）当学会投稿査読中に他の学会誌、商業誌などへ同内容の論文や記事を投稿しないようお願いします。海外学会誌への投稿も同様です。
2）図にメーカーカタログの写真を転用される場合は必ず許可を得て、図の注釈に引用先を明示してください。また他誌、Webからの図表の引用も必ず製作者、著者の許可を得て、引用先を明記してください。
3）医療機器、診療材料などの臨床使用評価や性能比較報告の際は、メーカーの営業活動を妨害しないよう配慮して作成してください。
4）投稿論文の中には特許権に抵触する知見報告も散見します。ご注意ください。

《JaSECT編集部》

〒453-8511　名古屋市中村区道下町3-35
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
臨床工学技術課内
開　正宏
TEL：052-481-5111（内線448836）
E-mail：jasect_hensyu@jasect.jp

Presented by Medical*Online

『体外循環技術』進行表

チェックリストといっしょにもれのないよう記載し、原稿に同封して提出してください。

太線枠内…執筆者記入

原稿名	(演題番号　　)
連絡先	〒　　－
	☎　　－　　－　　、Fax　　－　　－
	e-mail（　　@　　）
施設名	
所属部署名	
著者名	役職名　　JaSECT 正会員 No.
論文の分類	□原著論文　□投稿論文　□大会発表論文　□
COI の開示	□有　□無
	「有」の場合：氏名（　　）　営利団体名（　　）

二重線枠内…編集委員会記入

原稿受取日	年　月　日
担当者	□内容確認　□受領書
論文分類確認	□原著論文　□投稿論文　□大会発表論文　□
査読 1	氏名　/　/　～　/　/　採択　修正　非採択
査読 2	氏名　/　/　～　/　/　採択　修正　非採択
掲載予定	通巻　号　第　巻 No.　　掲載分野
出版社入稿日	年　月　日　□電子ファイル　□郵送

JaSECT 編集委員会 2014010 Ver.3.2

Presented by Medical*Online

原稿提出時のチェックリスト

（原稿、進行表といっしょに提出してください。下記のチェックボックスに不備がある場合は原稿を返却いたします）

（演題番号：　　）　著者名：　　施設名：

題　名：

チェックボックス□に✓してください

□「体外循環技術」投稿執筆規程〔2017年10月7日改定分〕を読み同意するか？
【重要】本論文と同内容または類似論文を他の学会や研究会へ投稿していないか？　□はい

□原稿原本（表紙、要旨、本文、参考文献、図表一覧、図表本体）をDVDまたは、CD-Rに記録したか？
□メディアのフォーマットタイプは　□MS-DOS　□MacOS
□メディアのファイル形式は本文は　□Word　□Pages　図表は　□PowerPoint　□Excel　□Numbers
□メディアに**演題番号、演題名、氏名**を記載したか？（シール貼付は厳禁とします）

□共著者の査読は？　氏　名　　㊞
（最終共著者名を必ず含むこと）　氏　名　　㊞
氏　名　　㊞

□原稿の大きさは**A4判（32字×25行）**でフォントは全てMS明朝体か？
□題名の記載は？　日本語・英語表記必要
□施設名・所属の記載は？　日本語・英語表記必要
□著者および共著者の記載は？　日本語・英語表記必要
□連絡先（施設住所、電話、FAXおよびE-mail）の記載は？　日本語・英語表記必要
論文の投稿分類は？　□原著論文　□投稿研究論文　□大会発表（研究）論文
□和文要旨は**480字以内**か？
□索引用語は5用語以内（1用語→日本語10字以内、英語3words以内）か？

□見出し番号は？　Ⅰ．＿＿＿＿＿＿　…見出し
1．＿＿＿＿＿＿　…小見出し
1)＿＿＿＿＿＿。
(1)＿＿＿＿＿＿。

□記載方法は？　Ⅰ．緒言（はじめに、まえがき）
Ⅱ．研究方法（対象、症例および方法）
Ⅲ．研究結果（結果）
Ⅳ．考察
Ⅴ．結論（結語、まとめ、おわりに）

□参考文献は本文中の引用箇所に番号順に**上付け**して記載したか？
□参考文献を番号順に記載した一覧表は作成したか？
□参考文献一覧表の各文献の表示著者数は3名以下になっているか？

□図表（**カラーの図表は禁止**）は鮮明か？また、**図表内の文字はすべてMS明朝体**か？
□図表はそれぞれ一点ずつA4用紙にプリントしたか？（電子投稿時はP.Pなどに1ページずつ）
□図表に表題は記載した（表題は、表の場合は表の上に、図の場合は図の下に）か？
□原稿本文の右余白に、**図表の掲載場所を赤字で記載（テキストボックスでもよい）**したか？
□図表の表題一覧はあるか？

投稿原稿の採否は後日通知する内容に同意するか？　□はい　□いいえ

ここは原著論文提出時の確認項目です。原著の投稿は郵送のみです。
査読と採択の審査は編集委員会が委託する有識者で組織した学術ワーキンググループの先生方が決定します。

□原稿原本とコピー2部（図表、文献も含む）は作成したか？
□400 word以内の英語要旨は記載したか？　採択後は専門業者による内容証明が必要になります。
□原著論文原本、同意書、誓約書、COI開示申告書、進行表、本チェックリスト、CD or DVD-Rの**7種類**

連絡欄：

メールでの投稿の際は進行表と本用紙記入後にPDFファイルを作成し、他のデータといっしょにお送りください。

JaSECT編集委員会　201208　Ver.4.0

Presented by Medical*Online

「体外循環技術」誌投稿へのCOI開示申告書

一般社団法人　　年　月　日 注1)

日本体外循環技術医学会　COI委員長　様

医学研究・論文、刊行物における著者および全共著者の産学連携利益相反状態を申告いたします。

論文名(和名)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申　告　者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印　　会員番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

	氏　名	所　属	COI状態	開示内容 注2)
著者			□有　□無	
共著者			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	
			□有　□無	

注1) 開示期間は上記日付（投稿日）から1年前となります。

注2) 開示内容は「臨床研究の利益相反に関する指針」4.開示公開すべき事項に沿い、該当する下記の番号①～⑨および営利団体名を記載すること。

①企業や営利を目的とする団体の役員、顧問職、社員などへの就任、②企業の株の保有、③企業や営利を目的とする団体からの特許権などの使用料、④企業や営利を目的とする団体からの会議の出席（発表）に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当（講演料など）、⑤企業や営利を目的とする団体がパンフレットなどの執筆に支払った原稿料、⑥企業や営利を目的とする団体が提供する研究費（治験、臨床試験費、共同研究費、寄付金など）、⑦企業や営利を目的とする団体から奨学寄付金（奨励寄付金）を受けている場合、⑧企業や営利を目的とする団体などの寄付講座、⑨企業や営利を目的とする団体からの旅費（学会参加、施設の視察）や贈答品の受領

以下　編集委員会記入欄

文書(論文)No.	編集委員長確認	備　考

JaSECT編集委員会　2014029　Ver.1.1

Presented by Medical*Online

『体外循環技術』 投稿原稿のしおり

日本体外循環技術医学会・編集委員会 2013年4月1日

本稿は、医学論文を執筆するために必要と考えられる医学論文の種類、一般的な実験的研究論文の構成、論文を書くときの正しい漢字および仮名書きにする語、単位記号の表記法を示しています。そして今回より、論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを統一して表記することになりました。原稿を提出されるときは、本稿を参考に執筆、投稿してくださるようお願い致します。

Ⅰ. 医学論文の種類

医学論文は、一般的に次の6項目に分類されています。以下に、それら論文の内容について記載します。

1. 原著（Original）

自分自身の研究成果をまとめたものを原著といいます。これには学位論文などがあり、新しい知見を含むことが必要です。

2. 総説（Review）

ある研究課題についての歴史的展望と現在の動向を紹介するものを総説といいます。多くの参考文献を添えるのが特徴です。

3. 症例報告（Case Report）

珍しい臨床研究や剖検例、新薬の使用経験、特定疾患の統計などが主で、考察のために多少の文献が必要です。

4. 臨床講義および解説

患者の実例を最初に述べ、その疾患診断、治療法などを総説的に説明したものを臨床講義および解説といいます。これらは、症例報告と総説の中間に位置します。

5. 速報（Short Communication）

雑誌の速報欄、短報欄、投書欄などに載せるもので、短い原著に近いものを速報といいます。

6. 抄録（Abstract）

学会の講演要旨が代表的なもので、科学研究費報告書なども一種の抄録です。一般的には字数に制限があります。

Ⅱ. 論文の構成

実験的研究の論文には、各章の標題として下記の用語が通常用いられています。以下に、各標題の執筆する内容について説明します。

1. 論文題名（Title）

題名だけで内容がほぼ想像できて簡潔なものが理想です。題名に副題（Subtitle）を付けることはなるべく避けたほうが良いとされていますが、副題を付けることにより、論文全体の内容を示す場合もありますので、絶対に不必要とはいえません。

2. 要旨（Synopsis）

実験やシステムの開発、新しい技術、理論などを本文とはまったく独立のものとして書きます。ここには議論や解釈、文献の参照、図表は使いません。論文の中心課題と本文の要点を手短に書いた文章でまとめます。

3. 索引用語（Key Words, Index Terms）

本文の内容に関係ある単語を数個列記します。単語は題名に含まれていなくて、論文の要素として重要なものが良いとされています。

4. 緒言（Introduction）

研究の目的や目標（新しい理論や原理の研究、原理の応用、装置やシステムの開発や改良など）、問題の定義、論文で取り扱う範囲、論文の背景、歴史的概観、関連研究などを述べます。研究史を含ませることがあり、研究方法が新しく開発されたものであれば詳しく説明します。

緒言の代わりに『まえがき』、『はじめに』を使用することもあります。ただし、これに対応して『まとめ』、『おわりに』を用います。

5. 研究方法（材料と方法；Materials and Methods）

研究計画、研究の状態や条件、研究対象、対象を選ぶ方法、介入方法、すべての観察項目の明示、データ評価の統計学的処理法について詳しく記載します。

6. 研究成績（研究結果；Results）

客観的データで、文章としては過去形に書き、本文のほかに図表を含みます。

7. 考察（Discussion）

他人の成績（文献）と比較しながら、自分の成績の意味を説明し、自分の考えを主観的記述で現在形に書きます。

8. 結論（Conclusion）

実験成績と考察のまとめを主としますが、実験方法に少しふれる場合もあります。しばしば箇条書きにされます。

統括的なことを述べ、序論で提起した問題に本論でどのように答えたかをまとめるとともに、理論や結果の正当性、有意性（利点だけでなく欠点も含む）、他の研究との違い、応用性、今後の課題などを述べます。

『結論』は、独自の理論や原理を扱った論文に用いることが多く、『まとめ、おわりに』は、解説的、一般的あるいは実用的な論文などで、考察の結果を一言で表現できる場合や、緒言で何か疑問を提起し、それ

Presented by Medical*Online

に対して Yes, No で結ぶときに使われています。

9. 文献（References, Literature）

論文に関係し、本文中で引用したものを書きます。文献は全編を通じて出てきた人名とその論文の出所を記録します。

Ⅲ. 漢字および仮名書きにする語について

論文を書くにあたり、一般的に仮名書きにする語、なるべく仮名書きにする語、原則として漢字を使用する語、および正しい送り仮名を表にまとめました。論文を執筆されるときの参考にしてください。

【漢字を用いてはいけない例】

宛も	（あたかも）	即ち	（すなわち）	筈	（はず）
或る	（ある）	総て	（すべて）	殆ど	（ほとんど）
如何なる	（いかなる）	折角	（せっかく）	略	（ほぼ）
何れ	（いずれ）	其の	（その）	寧ろ	（むしろ）
所謂	（いわゆる）	それ等	（それら）	迄	（まで）
於いて	（おいて）	先ず	（まず）	勿論	（もちろん）
凡そ	（およそ）	為に	（ために）	尤も	（もっとも）
及び	（および）	唯	（ただ）	以て	（もって）
却って	（かえって）	只	（ただ）	矢張り	（やはり）
此処	（ここ）	忽ち	（たちまち）	稍	（やや）
茲に	（ここに）	兎に角	（とにかく）	由って	（よって）
如く	（ごとく）	丈	（だけ）	判る	（わかる）
之	（これ）	誰	（だれ）	吾	（わが）
毎に	（ごとに）	乃至	（ないし）	僅かに	（わずかに）
然し	（しかし）	尚	（なお）	亘り	（わたり）
併し	（しかし）	何故	（なぜ）		
頗る	（すこぶる）	の外	（のほか）		

【なるべく仮名書きする語】

且つ	（かつ）	その位	（そのくらい）	出来る	（できる）
が在る	（がある）	それ故	（それゆえ）	で良い	（でよい）
が無い	（がない）	但し	（ただし）	又は	（または）
殊に	（ことに）	就いて	（ついて）	全く	（まったく）
する事	（すること）	と言う	（という）	の通り	（のとおり）
する時	（するとき）	の処	（のところ）	の様に	（のように）
する程	（するほど）	と共に	（とともに）	若しくは	（もしくは）

【原則として漢字を使用する語】

明るく	（あかるく）	現に	（げんに）	常に	（つねに）
至って	（いたって）	更に	（さらに）	特に	（とくに）
一切	（いっさい）	去る	（さる）	突然	（とつぜん）
大いに	（おおいに）	少し	（すこし）	何	（なに）
恐らく	（おそらく）	既に	（すでに）	並びに	（ならびに）
及ぼす	（およぼす）	実に	（じつに）	の場合	（のばあい）
必ず	（かならず）	その際	（そのさい）	初めて	（はじめて）
彼	（かれ）	大抵	（たいてい）	果たして	（はたして）
辛うじて	（かろうじて）	絶えず	（たえず）	再び	（ふたたび）
来たす	（きたす）	互いに	（たがいに）	最も	（もっとも）
来る	（きたる）	例えば	（たとえば）	専ら	（もっぱら）
極めて	（きわめて）	次いで	（ついで）	我が国	（わがくに）
概して	（がいして）	次に	（つぎに）	私	（わたし）
偶然	（ぐうぜん）	努めて	（つとめて）	我々	（われわれ）

”最も”は最上級を表すときは漢字で、”ただし”の意味で使用するときは仮名書きにします。
”並びに”、”又は”などの接続詞を漢字の直後に使用すると、漢字の続きとして読まれる恐れがありますので、漢字直後の場合だけ仮名書きにします。

Presented by Medical*Online

【正しい送り仮名】

明らかに	(あきらかに)	潤す	(うるおす)	賜る	(たまわる)
鮮やか	(あざやか)	補う	(おぎなう)	慎む	(つつしむ)
味わう	(あじわう)	幼い	(おさない)	冷たい	(つめたい)
暖かい	(あたたかい)	恐ろしい	(おそろしい)	貫く	(つらぬく)
新しい	(あたらしい)	陥る	(おちいる)	滞る	(とどこおる)
侮る	(あなどる)	顧みる	(かえりみる)	伴う	(ともなう)
危ない	(あぶない)	輝く	(かがやく)	懐かしい	(なつかしい)
謝る	(あやまる)	偏る	(かたよる)	働く	(はたらく)
誤る	(あやまる)	必ず	(かならず)	翻す	(ひるがえす)
表す	(あらわす)	汚い	(きたない)	短い	(みじかい)
著わす	(あらわす)	異なる	(ことなる)	難しい	(むずかしい)
現れる	(あらわれる)	断る	(ことわる)	群がる	(むらがる)
著しい	(いちじるしい)	盛んに	(さかんに)	珍しい	(めずらしい)
偽る	(いつわる)	従う	(したがう)	専ら	(もっぱら)
承る	(うけたまわる)	少ない	(すくない)	軟らか	(やわらか)
失う	(うしなう)	速やかに	(すみやかに)	煩う	(わずらう)
促す	(うながす)	平らに	(たいらに)		
占う	(うらなう)	確かめる	(たしかめる)		

Ⅳ. 度量衡に用いる単位や記号

度量衡の表記には原則として日本工業規格（JIS）が準拠する国際単位系（SI）を用いるが、圧力や容積などでは慣用計量単位を用いてもよい。(以下に例を示す)

長さ
- メートル …… m
- センチメートル … cm
- ミリメートル …… mm
- マイクロメートル μm

面積
- 平方メートル …… m^2
- 平方センチメートル …… cm^2

体積・容積
- 立法メートル …… m^3
- 立法センチメートル …… cm^3
- リットル …… L
- デシリットル …… dL
- ミリリットル …… mL

質量
- キログラム …… kg
- グラム …… g
- ミリグラム …… mg
- ニュートン …… N

圧力
- キログラム毎平方メートル …… kg/m^2
- 水銀柱ミリメートル …… mmHg
- 水柱センチメートル …… cmH_2O
- メガパスカル …… MPa
- キロパスカル …… kPa
- ヘクトパスカル … hPa

速さ
- 毎秒メートル …… m/s
- 毎秒ミリメートル cm/s

回転速度
- 毎分回転数…… rpm
- 角速度…… rad/s
- 周波数…… Hz

角度
- 度数…… °
- 平面角…… rad
- 立体角…… sr

温度
- 絶対温度…… K
- セルシウス氏温度 …… ℃

濃度
- ミリグラム毎デシリットル …… mg/dL
- ピコグラム毎デシリットル …… pg/dL
- ミリモル毎リットル …… mmol/L
- モル毎キログラム …… mol/kg

割合
- 百分率…… %
- 百万分率…… ppm

電磁気
- アンペア …… A
- クーロン …… Q
- ボルト …… V
- オーム …… Ω
- ワット …… W
- ジュール …… J
- ジーメンス …… S
- デシベル …… dB

など

Ⅴ. 会誌掲載にあたり統一して表記する用語

論文を会誌に掲載するにあたって、専門用語などを統一して表記することになりました。日本語（漢字）表記を基本に、適切な漢字表記がない場合はカタカナ表記としました。カタカナ表記が適切でない場合に限って英語表記としました。カタカナの長音については、内閣告示第二号を参考にしています。従来は一般的に「2音の用語は長音符号を付け、3音以上の用語の場合は（長音符号を）省くこと」というルールが採用されていましたが、新聞や放送が概ね内閣告示第二号の『外来語の表記』を参考にしていることから、当医学会でも長音符号を付けることを原則とします。

Presented by Medical*Online